

避難者受入マニュアルの見直しに向けた課題について(ブロック会議での意見)

区分	意見・質問の概要	考え方
1 マンパワー	訓練では避難所、避難経路所1カ所あたり、受付や誘導等に15人から20人程度配置している。 実際にはもっと多くの人数が必要になることが予想され、受入先市町村の職員だけの対応は難しい。	受付や誘導等は、避難者数や受入先市町村の職員体制により変動する可能性があります。 広域避難の実効性を高めるため、県を含め今後の検討課題と考えます。
2 マンパワー	原子力災害時はパニック的な状況も考えられる。交通誘導が大切になるが、マンパワーが必要になる。	スクリーニングポイント、避難経路所周辺を含め、誘導が必要になります。 国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。
3 マンパワー	防災担当者が1名しかおらず、避難所運営職員も他自治体より非常に少ないため、複合災害が想定される中で、本当に職員が足りるのか、課題だと考える。	計画の前提としては、新潟県原子力災害広域避難計画と同様に「PAZ及びUPZでは防護措置がとられるが、UPZ外では、降雪を含む自然災害による影響がなく原子力災害に対する防護措置も発生する状況ではない場合」としています。 緊急時における人員確保や人員体制また広域避難や広域連携等については、国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。
4 マンパワー	実際に自家用車で避難となる場合は、訓練以上にマンパワーが必要。	受付や誘導等は、避難者数や受入先市町村の職員体制により変動する可能性があります。 広域避難の実効性を高めるため、県を含め今後の検討課題と考えます。
5 マンパワー	避難所等でこういった役割が必要で、こういった人員が必要か検討して、人員を含めて準備する必要がある。	避難所の運営の役割・人員は、感染症対策を含め、自然災害と同程度と考えております。 避難経路所の開設・運営については、国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。
6 避難元 避難先	訓練のアンケートで避難先での誘導が分かりづらいとの意見やマンパワーが必要なものもわかってきた。 マニュアルの中に避難元、避難先の事前調整に重点を置くことが必要。	御意見を参考にマニュアルに反映します。
7 避難元 避難先	訓練に際して、避難元市町村から避難先の避難経路所、避難所を見てもらうことで、具体的にイメージしてもらうことができた。 現場を見ないとわからないこともある。	御意見のとおり、避難元、避難先が事前に避難経路所、避難所を確認し、事前調整を進めていくべきと考えます。
8 避難元 避難先	避難先に先遣隊を派遣することを事前に計画しており、避難経路所と本部に派遣することになっている。	避難元、避難先の連携策として参考とさせていただきます。
9 受付	訓練ではバス2台で行った際に、1台ずつ時間をおいて誘導したことにより、受付が1つ空くという状況が起きたが、受付のスピードを上げるため、やり方を検討していく必要がある。	避難経路所の受付では、迅速な受付とともに、避難先ごとの避難者数の把握を進める必要があります。 その両立を図るため、ICT化を進めるとともに、国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。

	区分	意見・質問の概要	考え方
10	受付	一時集合場所での受付や安定ヨウ素剤の配布の体制については、マンパワーが必要であり、今後検討していかないといけない。	一時集合場所での受付や安定ヨウ素剤の配布については、訓練等による検証が課題であると考えます。
11	受付	避難先市町村では避難元市町村の情報を持ち合わせていないため、経路所や避難所での受付をスムーズに適切に行うのは難しい。経路所と避難所をもう少し簡略化できるとよい。	避難元と避難先が事前に避難経路所、避難所を確認し、事前調整を進めていくべきと考えます。受付の迅速化を進めていく必要がありますので、ICT化を進めるとともに、国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。
12	受付	バス等で避難される方の避難者名簿は、避難経路所や車中で整理ができると避難所の作業短縮や人員の削減につながる。	避難所業務の効率化の方策として、御意見を参考にさせていただきます。
13	受付	避難に関して、ICTなどの検討も進めていく必要がある。	受付の迅速化を進めていく必要がありますので、ICT化を進めていく必要があると考えます。現在、国において、避難者情報の効率的な収集・活用についてICT化を検討しています。
14	避難経路所	訓練時の避難経路所において、避難者は初めての施設だったため、どこに行っているのかわからないなど流れが滞っていた。案内誘導する職員をしっかりと配置して、案内することが必要。	避難元、避難先の事前調整や訓練等による検証が課題であると考えます。
15	避難経路所	避難経路所に入る人と出る人の動線は交わらないように、スムーズな動線を考えることが必要。	避難元、避難先の事前調整や訓練等による検証が課題であると考えます。
16	避難経路所	スクリーニングポイントを通さずに避難経路所に行くことも考えられるため、それを見越した対策や計画が必要。	スクリーニング未検査者の取扱いについては、スクリーニングポイントを通過してもらう体制づくりを含め、国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。
17	避難車両・駐車場	広域避難は原則自家用車避難であるが、避難先市町村ではもともと駐車場が確保できないという課題がある。	広域避難の実効性を確保するために、今後の検討課題と考えます。
18	避難車両・駐車場	訓練において避難バスからの降車や乗車に思った以上に時間がかかったため、大型バス等の駐車スペースが必要。	広域避難の実効性を確保するために、今後の検討課題と考えます。
19	避難車両・駐車場	避難車両の動線等について工夫が必要と考える。	避難車両、避難者の動線については、国・県・市町村の広域的な訓練等を継続し、検証していく必要があると考えます。

	区分	意見・質問の概要	考え方
20	コロナ マンパワー	一般の方と感染疑い者に対して対応する職員を分けざるを得ない状況となると、マンパワーについて課題となる。	新型コロナウイルス感染症対策等を含めた人員確保については、県も含め今後の検討課題と考えます。
21	コロナ 物品	避難所の設営では、間仕切り等を避難者人数分を設置するには、かなり事前からの準備が必要。	感染症対策下での避難所運営については、国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。
22	コロナ 物品	感染症対策として間仕切りや消毒液などが相当必要になる。市町村でも一定程度確保しているが、広域避難となるとそれを超えるものが必要になることが予想される。	感染症対策の物品については、事前の備蓄や配布の調整など、国、県も含め今後の課題と考えます。
23	コロナ 避難車両	感染症対策により避難に必要なバスが増えると思うが、対応はどのように考えているのか。	緊急時は、感染症の状況を見ながら、必要なバスの調整が必要になると考えます。
24	コロナ 避難	避難バスでは一次集合場所から避難経路所、避難所までずっと一緒であるため、職員を含め、感染症対策が重要になる。	「新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた感染症の流行下での原子力災害時における防護措置の実施ガイドライン」での防災業務関係者の感染症対策(P6参照)に基づいて行う必要があります。
25	コロナ 避難	新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者や発熱、咳等のある者については、ガイドラインのバス座席レイアウト(例)にあるが、疑わしい者についても同じバスに同乗してもらうことでよいか。	感染症対策からは、車両が確保できれば、一人ずつや感染者関連のグループなどに分乗しての避難が理想となりますが、車両の問題があります。濃厚接触者の特定ができ、受付で発熱、咳等のある方を判断できる現状では、少なくとも座席レイアウトの形(「新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた感染症の流行下での原子力災害時における防護措置の実施ガイドライン」P22)での避難となります。
26	コロナ 検温	感染症対策で検温、消毒のスペースが必要になる。屋外で行うのが理想だが、悪天候の場合など屋外で対応できない場合も想定される。車中で待機してもらうなど受付が混まない形で誘導できるようマニュアルの配置図等に加えてほしい。	御意見を参考にマニュアルに反映します。
27	コロナ 検温	一時集合場所や避難経路所、避難所では検温のため、サーモグラフィーなどの整備が必要になる。	御意見を参考にマニュアルに反映します。
28	コロナ 換気	ガイドラインでの30分に1回の換気は、避難所、一般家庭での屋内退避、車両避難全て同じ考えを適用するのか。	ガイドラインの30分に1回の換気は、不特定多数の方々が集まっている場合に、特に実施すべき対策となります。家族で避難している場合(家庭での屋内退避、家族だけで乗車した車中)は、家族であれば生活を共にしており、避難によって感染リスクが高まることは考えにくいので、30分に1回の換気は特に必要な対策ではありません。

	区分	意見・質問の概要	考え方
29	コロナ換気	UPZ外の避難所で、換気するかしないかはどうなるのか。	UPZ外の避難所の対応は、基本的には定期的な換気は問題ありません。プルームなど放射性物質の飛散の恐れがあるなど、追加的に屋内退避指示が出た場合は、換気を止めることとなります。（「新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた感染症の流行下での原子力災害時における防護措置の実施ガイドライン」P18）
30	コロナ換気	30分に1回の換気について、まとめて1時間に1回とかにすることは可能か。	新型コロナウイルス対策ではまだ解明されていない点もあるため、今後の検証が必要と考えます。 ※「30分に1回程度、数分間窓を全開にする等の換気を行うよう努めること。」の箇所については、感染症の専門家からの指導に基づきガイドラインを決定している。
31	コロナ換気	放射線防護対策設備を施した施設の場合は、基本換気をしないでよいか。	放射線防護対策設備を起動すると、外気をフィルターを通して取り込み換気している状況となりますので、別途の換気は必要ありません。
32	コロナ受付	感染症対策の下、原子力防災訓練を実施して、人員、レイアウト、受付様式など協議、改善をしていく必要性を感じた。	感染症対策下での受付業務等については、今後も国・県・市町村の広域的な訓練等による検証により見直していく必要があると考えます。
33	コロナ受付	今年の訓練では感染症対策のため、1mの間隔を取るため、テントを屋外に設置し、スペースを確保するとか、バス避難者については、1度に降車しないで、間隔を空けて降車するというコントロールを実施した。実際の場合、相当円滑に回さないと滞留が起ってしまうのではないかとこの教訓を得た。	感染症対策下では、人と人の距離を確保し、密を防ぐために、スペースやある程度の待ち時間が発生することが見込まれます。今後も国・県・市町村の広域的な訓練等による検証により見直していく必要があると考えます。
34	コロナ受付	受付をスムーズに進めていく上で、様式をどうするか、人員がどれくらい必要か、新型コロナウイルス感染症対策も考えながら、検討を進めていく必要がある。	感染症対策下での避難の受付に関する様式や人員等については、今後も国・県・市町村の広域的な訓練等による検証により見直していく必要があると考えます。
35	コロナ動線	新型コロナウイルス感染症の疑い者の受付場所を別に設置したが、一般者とは入る場所、出る場所など動線を別にする必要がある。	感染疑い者とそれ以外で動線を分ける必要があり、今後も国・県・市町村の広域的な訓練等による検証により見直していく必要があると考えます。
36	コロナ動線	避難経路所や避難所でのバス、自家用車の車両の動線と感染者と一般の方の動線を考える必要がある。	感染疑い者とそれ以外での動線は、分ける必要があると考えます。 また、バス、自家用車の動線については、敷地の広さや受入先市町村の職員体制により変動する可能性があります。 今後も、国・県・市町村の広域的な訓練等による検証が課題であると考えます。
37	コロナ動線	感染疑いの経路は一般の方と接触のないように考える必要がある。	自然災害時の避難と同様に、感染疑い者とそれ以外で動線を分ける必要があり、今後も国・県・市町村の広域的な訓練等による検証により見直していく必要があると考えます。
38	コロナ動線	感染症対策の下、原子力防災訓練を実施して、健常者と感染疑い者の動線がもっと交わらないようにすればよかったと感じた。	自然災害時の避難と同様に、感染疑い者とそれ以外で動線を分ける必要があり、今後も国・県・市町村の広域的な訓練等による検証により見直していく必要があると考えます。

	区分	意見・質問の概要	考え方
39	安定ヨウ素剤	一時集合場所での安定ヨウ素剤の配布については、マイカー避難者の受取は徒歩にして動線を分けること、対応するスタッフの増員が必要。	一時集合場所での受付や安定ヨウ素剤の配布については、訓練等による検証が課題であると考えます。
40	安定ヨウ素剤	一時集合場所での安定ヨウ素剤の配布について、マイカー避難者を徒歩にする、バス避難者とマイカー避難者の混同するなど、対応する側として厳しい部分もあるため、検討する必要がある。	一時集合場所での受付や安定ヨウ素剤の配布については、訓練等による検証が課題であると考えます。